

◎第4回理事会(昭.27.9.11.)出席者: 稲浦会長, 立花副会長, 富樫, 中島, 今岡, 本間, 佐島, 高畑, 岡本, 榎の各理事, 協議事項: 1) 8月中の事業報告, 2) 秋のエキスカッションは新潟県三面川ダム工事視察のこととし樺島理事に一任, 3) 昭和28年度総会開催場所を協議, 4) ダムに使用するセメント懇談会を11月初旬に開催のこと, 5) 土木工学ハンドブック出版について, 6) サベージ博士再度来朝について16日カクテルパーティーを開催し, 同博士の技術的業績及び当学会に貴重な文献を多数寄贈せられたことに鑑み, この機会に名誉員に推薦する議があり, 常議員, 名誉員及び前会長に諮って異議なければ, 総会に事後報告することとし推挙すること, 7) 国際大ダム会議日本国内委員会打合会を9月12日開催のこと, 8) セメント技術協会「コンクリート収縮調査委員会」の委員に国分正胤, 川口輝夫の両君を推薦すること, 9) 基金のうち割興償還後これを継続するかどうかは中島理事研究のこと, 10) 法面築堤崩壊防止委員会に高坂紫朗君を, コンクリート常置委員会に伊東茂富, 森茂, 片山重夫, 市原松平, 野田和郎, 高橋光雄, 三浦一郎, 配島治郎, 海上秀太郎, 杉木六郎の諸君を委員に追加すること, 11) 会員入退会承認。

◎各種委員会

1. 編集委員会(昭.27.9.19)出席者: 本間, 佐島正副委員長, 村山(石原代), 菊池, 川口, 安部, 岩塚, 平井(代), 協議事項: 1) 会誌及び論文集進捗状況報告, 2) 原稿審査報告及び原稿審査委員の決定, 3) 第37巻第11号登載論文を下記の通り決定,

上山惟康: 洪水の週期変動について, 石原藤次郎・上山惟康: 年最大洪水流量の長期予報について, 森麟: 土の電気伝導について, 成岡昌夫: 鋼道路橋鉄筋コンクリート連続版の剪断について, 田中茂: 上下流の水位差に比し巾の狭い矩形断面堤体の滲透, 成岡昌夫・辻和一郎: 電気抵抗線歪計用接着剤について, 近藤繁人: 梁の撓みに関するモールの定理の拡張について, 4) 抄録について, 5) 討議依頼先の決定。

2. 第8回法面築堤崩壊防止委員会(昭.27.9.9.)出席者: 最上, 福岡, 宮崎の各委員, 八十島, 三木, 岩塚, 山口, 市嶋, 伊崎, 池田, 大場の各幹事及び木村, 浜の両君, 協議事項: 1) 委員及び幹事追加について, 2) 鉄道切取及び盛土標準設計案について逐条

審議した。

3. コンクリート常置委員会(昭.27.9.10)出席者: 吉田委員長, 国分, 猪股, 川口, 山田, 田村, 畑野, 深谷, 伊東, 市原の各委員, 協議事項: 1) プレストレスト コンクリートの記号について猪股委員原案を説明の後, その構想をまとめこれによつて原案を改め次回に再審議すること, 2) 細骨材の有機不純物の項に豊浦標準砂と規定してあるが色々不都合を生ずる場合があると山田委員より提案, 種々協議の結果, 改訂の原案を山田委員作製の上次回に審議すること。

4. コンクリート常置委員会(昭.27.9.24)出席者: 吉田委員長, 国分, 猪股, 川口, 谷藤, 田村, 畑野, 深谷, 藤田, 丸安, 伊東, 市原(代), 三浦, 杉木, 野田, 高橋, 樋口, 片山の各委員, 協議事項: 1) プレストレスト・コンクリートの記号について猪股委員から説明の後逐条審議した。2) コンクリート標準示方書の一部訂正は山田委員の原案を検討の結果, 細骨材の有機不純物の(2)項中に“豊浦標準砂”とあるを“本示方書に合格する砂”と訂正することに決定したその経過報告は付けないこととする(お知らせ欄参照), 3) 委員に水野俊一君を追加のこと。

5. サベージ博士文献管理委員会(昭.27.9.24)出席者: 吉田委員長, 種谷, 高橋, 高畑, 細田, 神谷, 佐藤の各委員, 協議事項: 1) 中川書記長から文献複写予約状況と改訂ページ数及び単価変更を説明の上審議の結果3回に分割配本することとし, 各予約者に代価払込方通知すること, 2) 印刷部数はとりあえず第1回配本の分を暫定的に決定し, 希望者増加の傾向を見て他を決定することとする。

◎その他

1. 応用力学連合講演会事務打合(昭.27.9.6.)出席者: 岡本委員長外関係学会の各担当者, 協議事項: 各室分担, 司会者, 費用分担方法, 前刷, 講演に関する事項等を詳細に打合せた。

2. 大ダム会議打合会(昭.27.9.12.)出席者: 大西前会長, 進藤動力協会副会長, 菅谷(動力協会), 高橋, 高畑, 久保, 久保田, 種谷の各氏, 協議事項: 1) 進藤氏より今までの経過大要を述べ, 菅谷氏詳細に各種プリントについて説明, 2) 世界動力会議の一分科となつているが土木に最も関係深いものであるから土木学会の会員が取り上げ, 動力協会は充分これに関心

をもつて援助し、専門委員としてエキスパートを網羅すること、3) 費用は最低年額 50 万～100 万円を必要とするが、これは何とかするとして、国際大ダム会議の日本国内委員会を独立して設置すること、4) 大西前会長に一任し、動力協会と協議の上具体案を作製すること。

3. サベージ博士パーティー (昭.27.9.16. 日活ホテル) 出席者: サベージ博士、稲浦会長、バンホルンライン氏、那波、草間、生野、丹治の各名誉員、鈴木、吉田、大西の前会長、高橋三郎、小野基樹、徳善義光、久保田豊、市浦繁、神谷貞吉、高畑政信、種谷実の各委員、稲浦会長から一場の挨拶の後、同博士を当学会の名誉員に推挙する旨申述べ推挙状を贈呈すれば、同博士は無上の光栄であると非常に感謝の意を表せられ、また寄贈した図書の外にモットモットたくさん日本の土木学会に贈ろうと述べた。その他生野名誉員は京都奈良の事跡を説明したりして和やかに懇談の後散会した。なお同博士は 13 日朝後東京都小河内ダム、中部電力の佐久間ダム地点を視察後 24 日離日マニラに向つた。



4. ダムに使用するセメント懇談会打合せ (昭.27.9.20) 出席者: 吉田前会長、本間理事、国分正胤、藤井光蔵、浅野忠、諸井英一の諸氏、協議事項: 懇談会日時、会場、出席者等について協議した。

5. 土、粉体、粒体連合講演会打合せ (昭.27.9.26 日本化学会) 土木学会から榎理事、捧筆書記出席、協議事項: 1) プログラムの作製、2) 講演会次第の打合せ (お知らせ欄参照)。

6. 日本学術会議では 10 月 22～24 日に第 13 回総会を開催するが、これは公開であるから関係各位の傍聴を希望するとの案内に接した。

7. 安芸皎一氏はアラスカ開発問題に関し米国と接衝のため 9 月 17 日羽田発渡米した。

支部だより

1. 北海道支部 炭鉱見学会 (昭.27.8.31.) 三井鉱山KK砂川鉱業所の洗炭場、堅坑、奈井江鉱開発状況等を視察したところ、快晴に恵まれ道内各地から約 100 名参集し、同所の格別の御配慮により、予想以上の好成績をあげる事ができ、特に北炭夕張から約 40 名の参加者を得て、炭坑技術向上に取り組む真摯な姿が目を見らした。

2. 中部支部 1) 土質工学講習会 (昭.27.8.21～22) 参加者: 170 名、講習概要: 土質工学一般 (星楚和) 土質試験一般 (三木五三郎) 路床と路盤 (巻内一夫) 河川堤防 (福岡正巳) 砂利道維持補修 (谷藤正三) 地盤沈下 (森本茂男) 基礎工学 (松尾新一郎) 土質試験実習 (中部地建)、暑気殊の外激烈であつたが各講師の熱心な講義に聴講者は多大の感銘を受け多大の成果を収めた。この企画に協力された建設省中部地建、愛知県、名古屋市並びに名古屋大の関係各位に謝意を表す。2) 第 3 回見学会 (昭.27.8.17.) 国鉄星越トンネル工事、参加者: 52 名、10 時半三河三谷駅前に集合、トラックに分乗、三河三谷工事区に至り柏田区長より工事の計画概要及び突貫工事の核心をなす導坑掘削の詳細な説明を聴き終つてトンネル内工事を見学した。同トンネルは東海道線電化計画で旧トンネル拡築する必要に迫られたが列車運転中改築は困難なので幹線ルートを採用し着工したもので、トンネル延長 395m、改築区間 2500m である。見学後快速定期船で大島に渡り、それぞれ自由行動で清遊を行つた。この見学について国鉄岐阜工事事務所、熊谷組の協力に謝意を表す。3) 第 6 回幹事会 (昭.27.9.2.) 出席者: 高桑幹事長、奥田評議員、戸田、渡辺、鈴木、四野宮、中谷、長坂、村瀬(代)、小林(代)、鈴木(代)、井上(代)、早川(代)、和久(代)、増山(代)、議題: 1) 8 月行事報告、2) 9 月行事として名古屋港見学計画、3) 支部大会準備、4) その他弾丸道路の講演、水理研究会等につき協議、奥田評議員からコンクリート、土質、水理、砂防等の研究会を支部に設けるよう要望があつた。

3. 関西支部 第 2 回役員会 (昭.27.8.11) 出席者: 武居支部長、松島、福留、林、和田、泉谷の元支部長、萱野、富谷、田中(代)八島、岡部、山本、清水、福林、杉の各商議員、柴橋、森垣、成岡の各幹事、中川主事 議題: 1) 会計中間報告、2) 福井県の関西支部へ移管について報告、3) 支部内規の内商議員 24 名のところ福井県移管に伴い 1 名増員し 25 名とす

る。なお増員役員は福井県土木部長西村敏男君に決定、4) 役員齋藤義治君の後任として藤芳義男君に決定、5) 特別調査委員会を設置し幹事会で具体的事項を決定すること、6) 本年度講習会は水に関するもの

として1月末に開催することとし、成岡幹事立案のこと、5) 通俗講演会を11月22日に開催し電源開発と防潮堤に関するものとする。

福田副会長欧米通信 (第6信)

シカゴを13日午後出発、約1500kmの行程を連続26時間 Greyhound bus に乗つてカナダ・モントリオールに9月15日着いた。Bus は時速80~100キロで極めて快適でした。シカゴでは建設省伊藤剛氏

農林省の清野保氏と大體同一行動をとつた。Canada で Arvida の全アルミ道路橋, Shipshow 発電所, アルミ工場, Saguenay 河の2大ダム工事, Dominion Bridge Co. の工場等を視察の後、本今朝 New York に着いた。早速1人で Subway に乗り、歩きまわつている。(9月18日)

昭和27年9月分入退会報告 (9.1~9.30 現在)

1. 入会 58名 (名1, 正17, 准25, 学15) 3. 転格 2名 (准より正1, 学より准1)
2. 退会 11名 (正4, 准6, 学1)

会 員 現 在 数 (27. 9. 30 現在)

名誉員	賛助員	特別員	正員	准員	学生員	合計	増加数
19	16	248	4664	5306	1164	11417	47

昭和27年10月10日印刷 土木学会誌 定価 100円
昭和27年10月15日発行 第37巻第10号

編集兼発行者 東京都千代田区大手町2丁目4番地 中川一美
印刷者 東京都港区赤坂溜池5番地 大沼正吉
印刷所 東京都港区赤坂溜池5番地 株式会社技報堂

東京中央局区内千代田区大手町2丁目4番地 電話和田倉(20)3945番

発行所 社団法人土木学会 振替東京16828番